

「2021年9月短観（茨城県）」の解説

【判断 D.I.】

- 業況判断 D.I.は、製造業がやや改善した一方、非製造業が悪化したことから、全産業では「良い」超幅が縮小しました。
- 先行き2021年12月までの予測では、製造業、非製造業ともに悪化するため、全産業では「悪い」超に転化すると見込まれています。

【事業計画】

- 2021年度の事業計画をみると、業績は、前年度対比「増収・増益」となる計画です。設備投資は、前年度を下回る計画となっています。

I. 判断 D.I.

1. 業況判断

- 企業の業況判断 D.I.は、製造業（前回12→今回13）がやや改善した一方、非製造業（同△3→同△8）が悪化したことから、全産業（同4→同2）では2期連続で悪化した。
 - 全国の動き（全国短観）をみると、非製造業（前回△7→今回△7）が横ばいの一方、製造業（同2→同5）が改善したことから、全産業（同△3→同△2）ではやや改善した。
- ◇ 県内の業種ごとの主な動きをみると、製造業では、食料品が外食・業務用需要の低迷から悪化した一方、金属製品、輸送用機械が自動車、農業・建設機械向けの好調等から、電気機械が半導体関連需要の好調等から、それぞれ改善した。
- ◇ 非製造業では、小売、運輸・郵便、宿泊・飲食サービスが感染症の再拡大を背景とした外出・営業自粛の影響等から、それぞれ悪化した。
- 先行き2021年12月までの予測では、製造業（今回13→先行き10）、非製造業（同△8→同△13）ともに悪化し、全産業（同2→同△2）でも悪化が見込まれています。

2. 需給・在庫・価格判断

- 国内での製商品・サービス需給判断（全産業）は、製造業が「供給超過」幅をやや拡大した一方、非製造業が「供給超過」幅を縮小したことから、全産業では「供給超過」幅がやや縮小した（前回 $\Delta 16$ →今回 $\Delta 15$ ）。先行きについては、「供給超過」幅の縮小を予測（今回 $\Delta 15$ →先行き $\Delta 14$ ）。
- 海外での製商品需給判断（製造業）は、「需要超過」で横ばい（前回 19 →今回 19 ）。先行きについては、「需要超過」幅の拡大を予測（今回 19 →先行き 24 ）。
- 製商品在庫水準判断（全産業）は、「過大」超幅が縮小した（前回 8 →今回 3 ）。
- 仕入価格判断（全産業）は、「上昇」超幅が拡大した（前回 31 →今回 42 ）。販売価格判断（全産業）も、「上昇」超幅が拡大した（同 3 →同 13 ）。先行きについては、仕入価格判断（全産業）は、「上昇」超幅の縮小を予測（今回 42 →先行き 39 ）。販売価格判断（全産業）は、「上昇」超幅の拡大を予測（同 13 →同 15 ）。

3. 設備・雇用人員判断

- 生産・営業用設備判断（全産業）は、「過剰」超に転化した（前回 $\Delta 1$ →今回 2 ）。先行きについては、「不足」超への転化を予測（今回 2 →先行き $\Delta 4$ ）。
- 雇用人員判断（全産業）は、「不足」超幅が拡大（前回 $\Delta 19$ →今回 $\Delta 24$ ）。先行きについては、「不足」超幅の拡大を予測（今回 $\Delta 24$ →先行き $\Delta 29$ ）。

4. 企業金融関連判断

- 資金繰り判断（全産業）は「楽である」超幅が拡大した（前回 9 →今回 13 ）。金融機関の貸出態度判断（全産業）は「緩い」超幅がやや縮小した（同 14 →同 13 ）。この間、借入金利水準判断（全産業）は「低下」超幅がやや縮小した（同 $\Delta 3$ →同 $\Delta 2$ ）。

II. 事業計画

1. 売上高

- 2021年度の売上高は、製造業（前年度比 $+11.0\%$ ）、非製造業（同 $+0.6\%$ ）ともに増収計画となり、全産業（同 $+5.7\%$ ）でも4年振りに増収となる計画（前回調査から $+0.7\%$ の上方修正）。

2. 経常利益

- 2021年度の経常利益は、製造業（前年度比+23.3%）、非製造業（同+0.7%）ともに増益計画となり、全産業（同+6.8%）でも3年連続の増益となる計画（前回調査から+6.1%の上方修正）。

3. 設備投資額

- 2021年度の設備投資額（ソフトウェアを含むく除く土地投資額）は、非製造業（前年度比+0.1%）が増加計画の一方、製造業（同△8.9%）は減少計画となり、全産業（同△6.5%）では2年振りの減少となる計画（前回調査から△2.7%の下方修正）。

以 上

(参考)

茨城県と全国の業況判断D. I. (全規模)の推移

